

ナシ病害虫の発生状況（8月）

（1）ナシ黒星病

新梢葉及び果実での発生ほ場割合は、平年並の状況でした（図1、2）。発生の多いほ場では幸水収穫後に秋期防除を徹底し、越冬菌密度の低下を図りましょう。

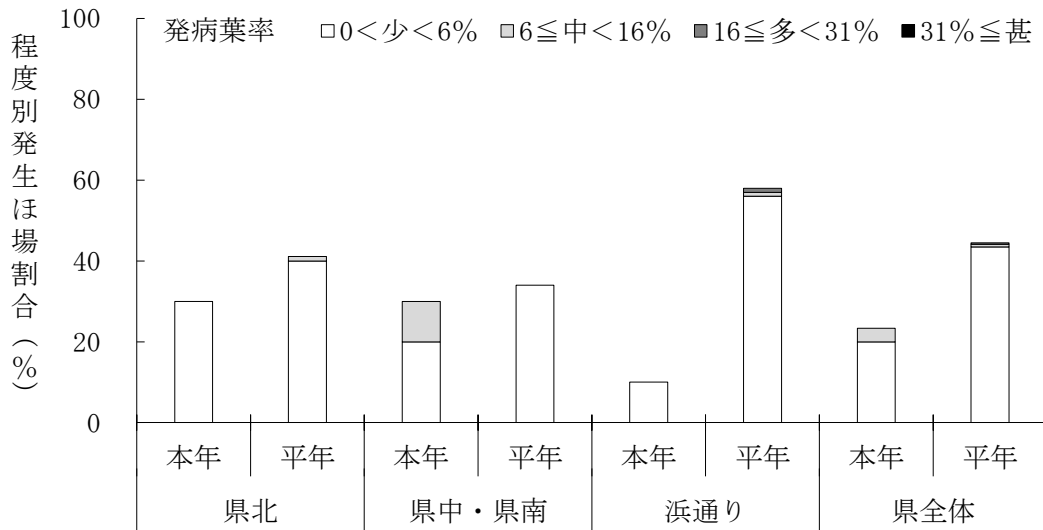


図1 ナシ黒星病の新梢葉での発生状況（8月中旬）

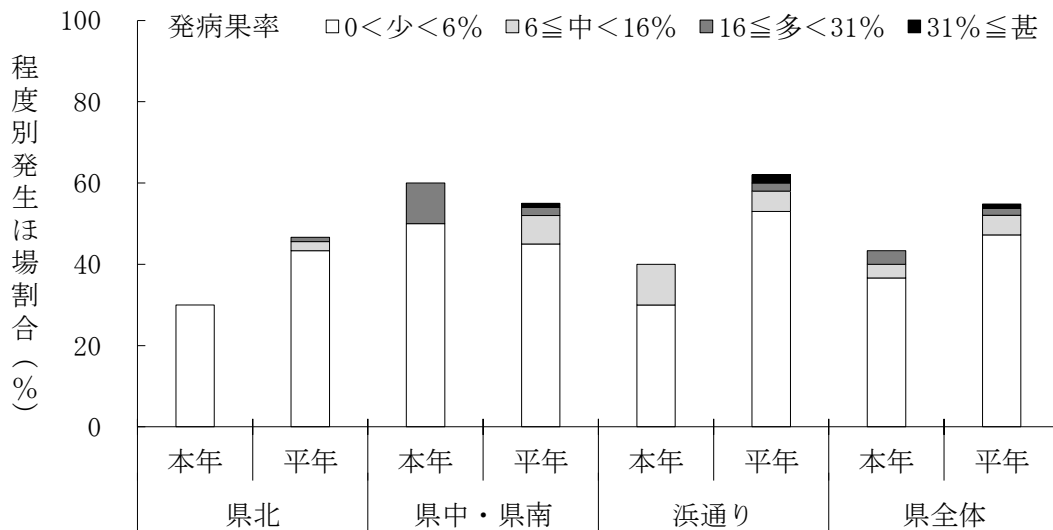


図2 ナシ黒星病の果実での発生状況（8月中旬）

（2）ナシ輪紋病

果実発病は確認されませんでした。

（3）シンクイムシ類

ナシヒメシンクイによる果実被害の発生ほ場割合は、平年よりやや高い状況でした（図3）。

ナシヒメシンクイ第4世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、8月6半旬ごろと予測され、第5世代幼虫の防除適期は9月1半旬ごろと推定されます。

本種は、もも等の核果類の新梢伸長が停止すると、なし果実への寄生が増加します。例年、なしの果実被害が多い地域では、今回以降の防除を徹底しましょう。

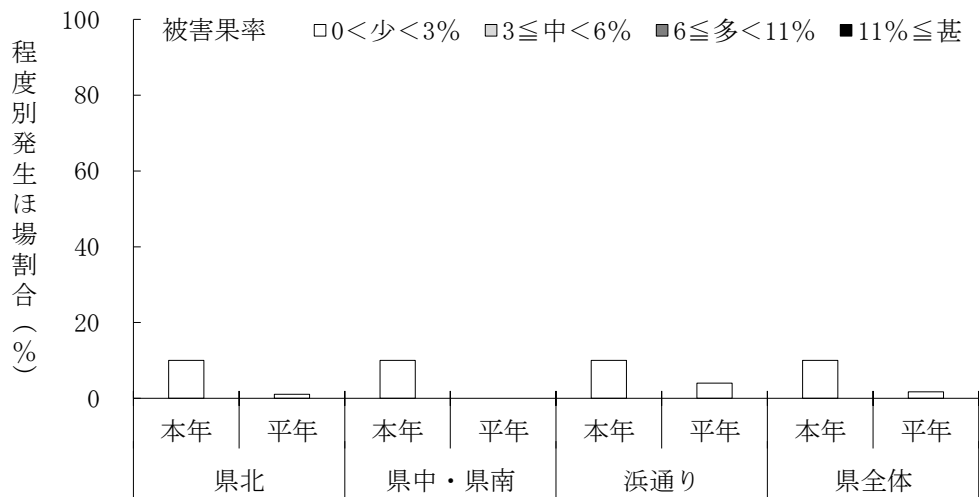


図3 ナシヒメシンクイによる果実の被害状況 (8月中旬)

(4) ハダニ類

新梢葉での寄生ほ場割合は、平年並の状況でした(図4)。園地での発生状況をよく観察し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達した場合は、薬剤散布を実施しましょう。

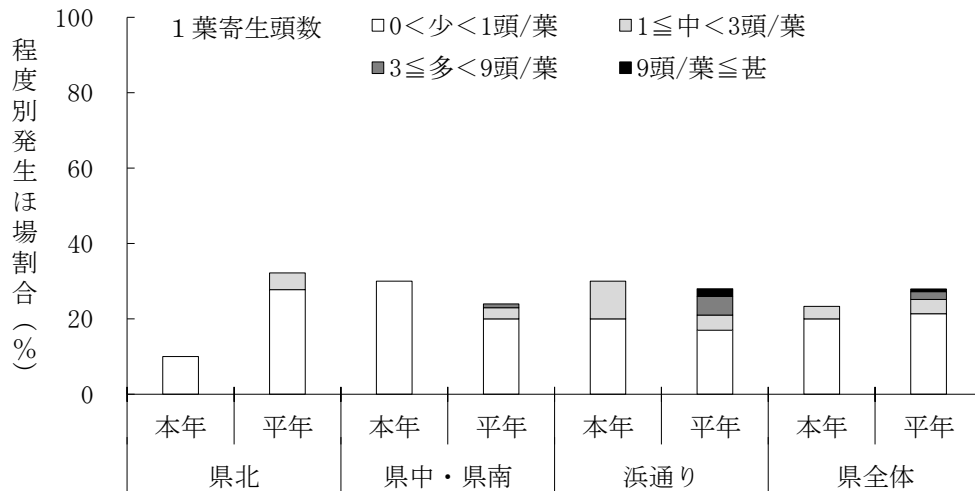


図4 ハダニ類の発生状況 (8月中旬)

(5) カメムシ類

果実被害発生ほ場割合は、中通りは平年並、浜通りやや高い状況でした(図5)。新成虫の活動が活発な時期となっています。園地での飛来状況をよく確認し、発生を確認したら速やかに薬剤防除を実施しましょう。

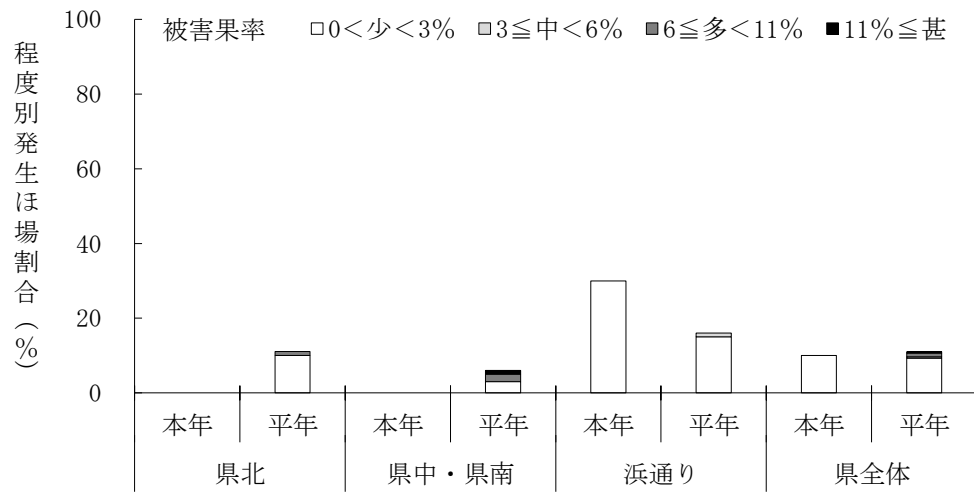


図5 カメムシ類による果実被害の発生状況（8月中旬）